

1. 研究目的

1.1 背景

- 水環境数値シミュレーションモデルはまだ研究発展段階にあり、環境影響評価を行うための統一的なモデルが存在しない
- 港湾空港技術研究所が開発した流動生態系シミュレーションシステムEcoPARI (Ecological hydrodynamics simulation system of the Port and Airport Research Institute、田中・鈴木、2010;田中ら、2011; Matsuzaki et al. 2024)の活用が期待される。

1.2 課題

- EcoPARIは高度であるが故、計算コストがかかる。大型計算機を所有していない者でもEcoPARIの利用可能な環境を構築する必要がある。
- 水環境をシミュレーションするための生態系モデルは、多くの設定すべきパラメータがあり、それらを客観的に決定する手法が求められる。港湾空港技術研究所はデータ同化と遺伝的アルゴリズムという手法で、パラメータを客観的に決定するためのシステムをEcoPARIに組み込んでいるが、効率的に研究を進めるためには大型計算機を活用したパラメータ調整システムの構築が必要である。
- 「海の天気予報」のシステム構築においても大規模計算資源が必要。

1.3 目的

- 本研究では基盤となるEcoPARIを開発してきた国研、環境分野の技術開発を得意とする建設コンサルタント、高速化を得意とする大学・ソフトウェア開発会社を含めた学際的共同により、水環境数値シミュレーションを実施するマルチプラットフォームを形成する。

2. JHPCNとして実施する必要性

- 公共事業の正確な環境影響評価の実施のためには、客観的な数値シミュレーション結果を得られるEcoPARIの民間企業を含めた幅広い利用と、スパコンを使った高速化による客観的なパラメータ調整が不可欠である。
- 構築したプラットフォームは官民を含む技術者・研究者による使用が可能となるため、幅広い利活用が見込まれる。
- 開発された「海の天気予報」は研究者や行政担当者のみならず、将来的には広く国民を含めて活用されることを目指している。

3. 研究の意義

- データ同化や遺伝的アルゴリズムといったシステムを沿岸域の水環境数値シミュレーションに適用した事例はほとんどなく、この研究の世界的トップランナーである応募者らによるパラメータ調整システムの構築は、正確な水環境数値シミュレーションの実施のためのブレークスルーとなる。

4. 研究計画 (3年計画の3か年目)

4.1 EcoPARIの三大湾への適用

- SQUIDの汎用CPUノード群で早く計算、三大湾(東京湾、伊勢湾、大阪湾)へのApplication。
- データベース(境界条件ファイル、計算結果検証用観測データ)を整備

4.2 データ同化と遺伝的アルゴリズムによるモデルのパラメータチューニング

- データ同化システムによるパラメータ調整、生態系モデルの底層DOの再現性向上を狙う
- 遺伝的アルゴリズムによるパラメータ調整、生態系モデルのパラメータ全体の再現性向上を図る
- EcoPARI-simulatorのGPU化、Aquariusに実装

4.3 「海の天気予報」の試験運用

- 伊勢湾の11日間先までの水温や溶存酸素濃度を予測するシステムの試験運用の継続
- 伊勢湾の10時間先までの流向流速と潮目位置を精緻に予測するシステムの試験運用

5. 3年計画の2年目までの研究成果

- 伊勢湾、東京湾、大阪湾のシミュレーションをスパコンで実施できるシステム、パラメータチューニングシステム、海の天気予報等のwebアプリケーションの構築がなされた。

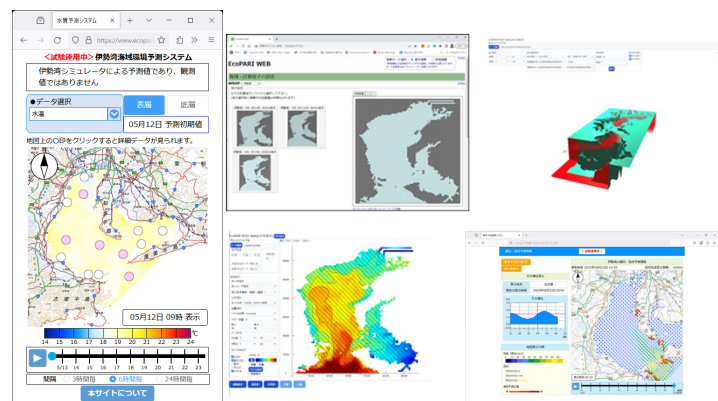
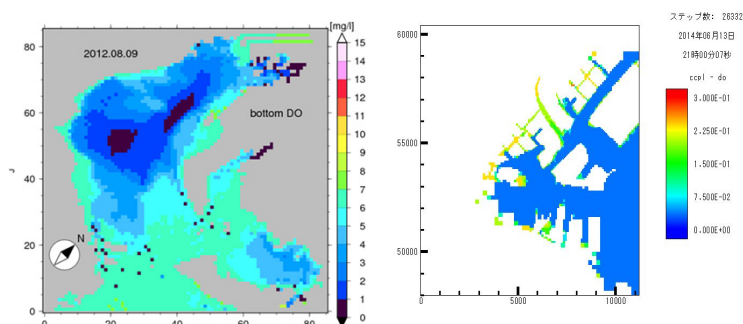


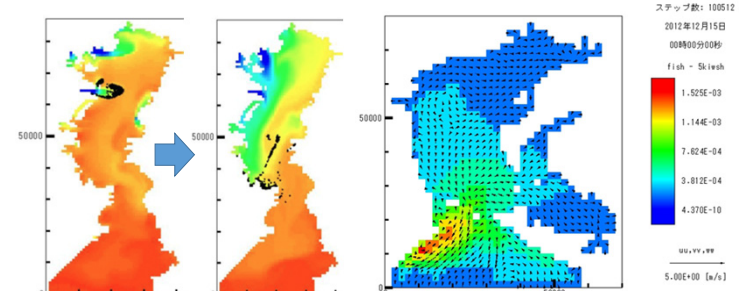
図 構築したwebアプリケーション <https://www.ecopari.pari.go.jp/>

References

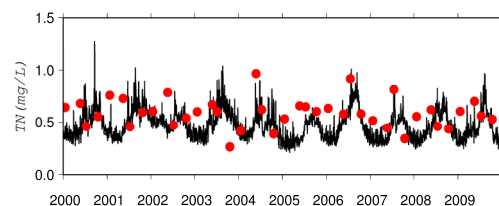
- 田中隆二、鈴木高二郎. (2010). 密度流渦昇降の計算を目的とした三次元沿岸域流動モデルの開発について. 港湾 空港技術研究所報告, 49(1), 3-25.
- 田中隆二、中村由行、鈴木高二郎、井上徹教、西村洋子. (2011). 微生物ループを考慮した浮遊生態系モデルの構築. 港湾 空港技術研究所報告, 50(2), 3-68.
- Matsuzaki, Y., & Inoue, T. (2022). Perturbation of Boundary Conditions to Create Appropriate Ensembles for Regional Data Assimilation in Coastal Estuary Modeling. Journal of Geophysical Research: Oceans. <https://doi.org/10.1029/2021JC017911>



(1) 伊勢湾の底層溶存酸素の水平分布。青色は酸素濃度が低い状態を表す
(2) BCM (詳細地形) による横浜港内の底層DOの水平分布。地形を詳細に表現することで、浅場造成などの局所的な地形変化が水質に与える影響を予測できる。



(3) 東京湾における粒子追跡結果。多摩川から放流された粒子(黒い点)が湾口の平分布図。外洋水のほうが温かいため、湾口付近に集中していることが確認できる。



(5) 栄養塩の時系列分布図(赤丸が観測値、黒線がシミュレーション結果)

EcoPARIでは窒素、リンなどの栄養塩の計算も可能である。また、植物プランクトンや動物プランクトンのシミュレーションも可能である。

図 EcoPARIで実施可能なシミュレーションの例

学術的研究要素

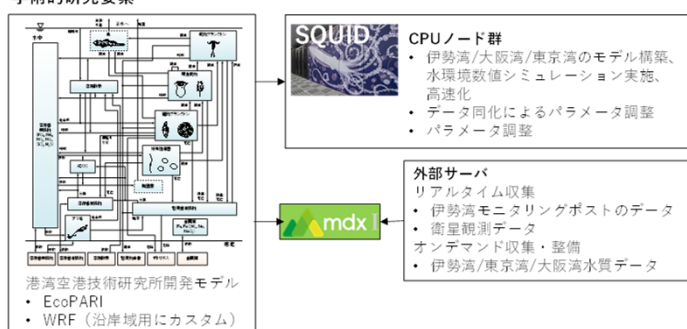


図 学術的研究要素

開発研究要素と、学術的研究要素を踏まえた3年間の成果

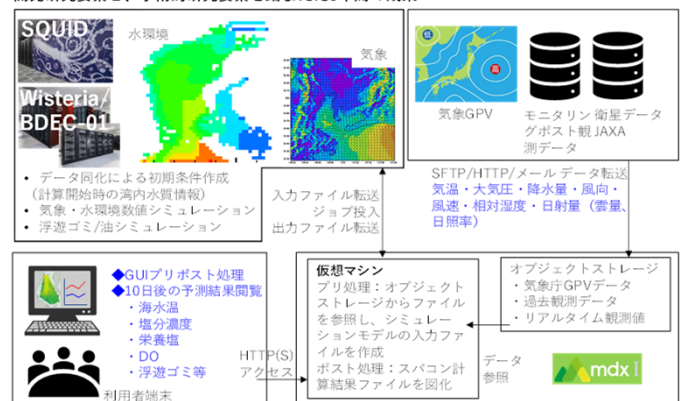


図 開発研究要素と学術的研究要素を踏まえた3年間の成果